

平成 25 年度実施した主な青葉区現況調査

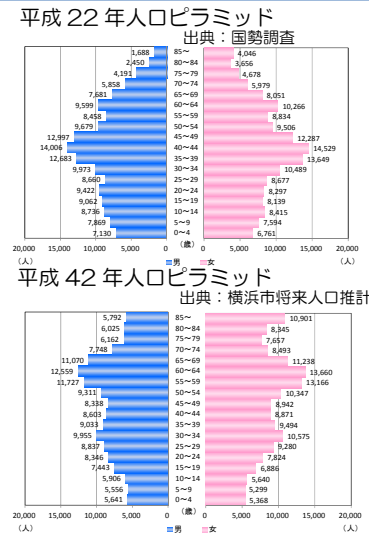
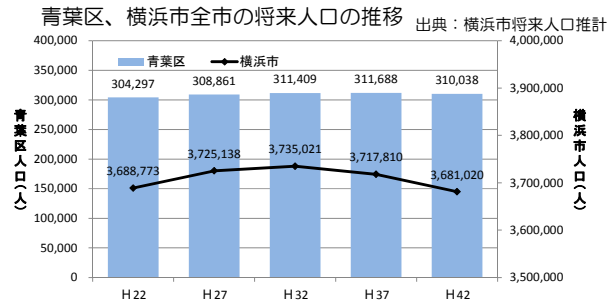
主な調査項目

- 1. 地形・自然の特徴
- 2. 区の成り立ち
- 3. 人口・世帯
- 4. 土地利用
- 5. 暮らしや市民活動に関する施設
- 6. 産業
- 7. 道路・交通
- 8. 水・緑
- 9. 防災
- 10. 区の特徴・魅力

調査結果による青葉区の特徴

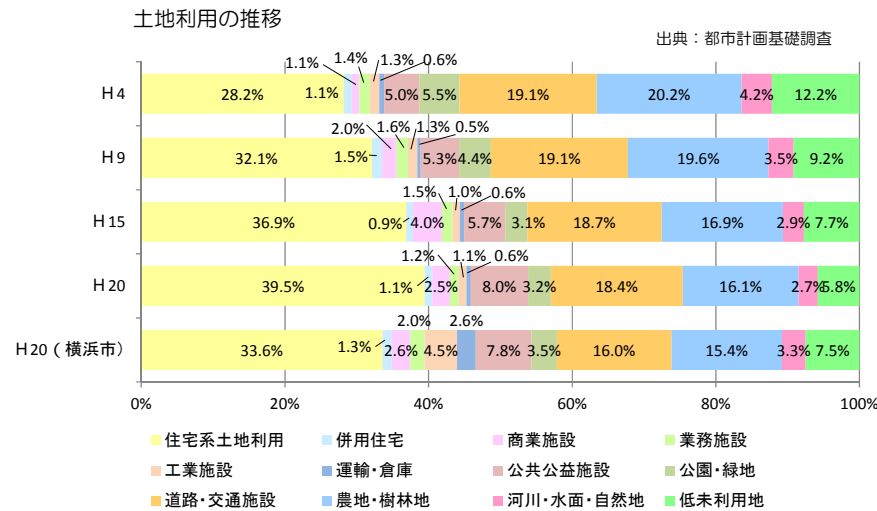
将来人口規模と高齢化率

青葉区の将来人口は、平成 37 年でピークを迎えることが見込まれています。現在（平成 23 年 3 月 1 日時点）の平均年齢は横浜市で 2 番目に若い 41.0 歳ですが、年齢区分別人口の推移は年少人口が減少していくのに対し、老年人口が増加し、平成 42 年の高齢化率は 26.9% になることが見込まれています。

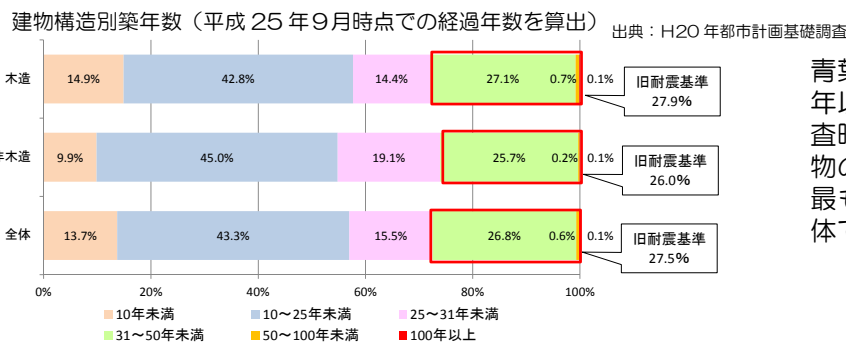


土地利用の状況

年々住宅地の割合が増加している一方、低未利用地と農地・樹林地の割合が減少しています。また、各駅周辺は商業系の土地利用がなされており、拠点的な市街地を形成している一方、全体に対する商業施設の割合は 2.5% となっています。



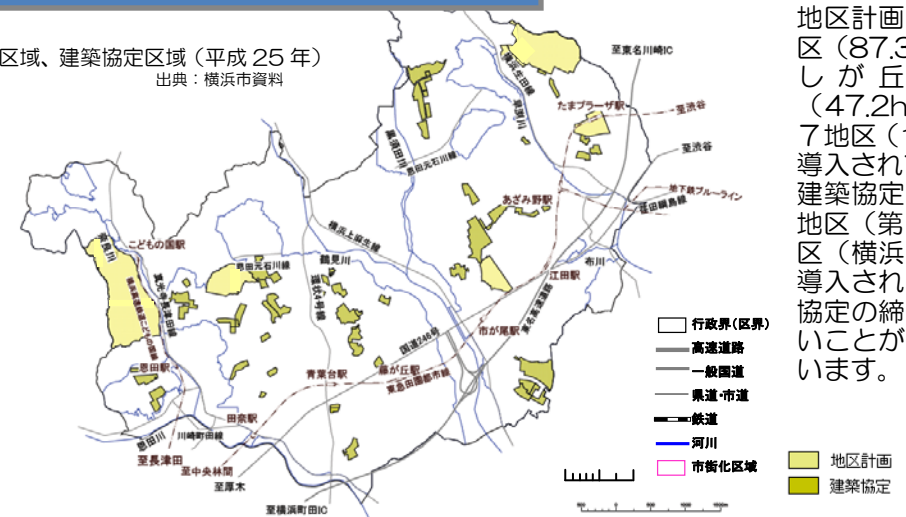
建物の耐震化状況



青葉区の旧耐震基準（昭和 56 年以前に建てられた建物で、調査時点で築 31 年以上）の建築物の割合は 27.5% と横浜市で最も低くなっています。（市全体では 43%）

良好な住環境の確保に係る建築協定の締結等

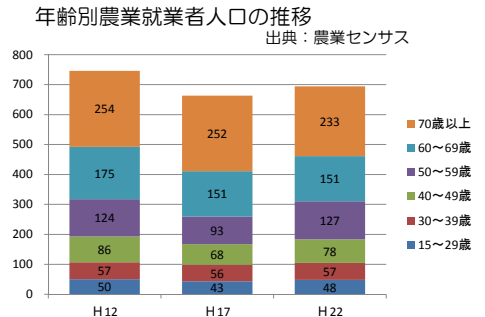
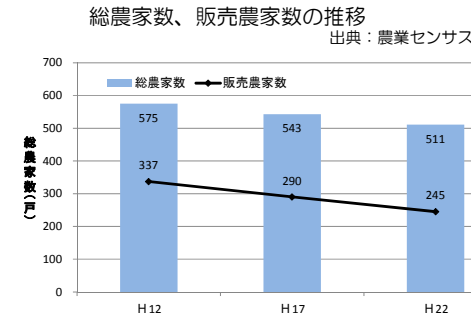
地区計画区域、建築協定区域（平成 25 年）  
出典：横浜市資料



地区計画は、緑奈良地区（87.3ha）、青葉美しが丘中部地区（47.2ha）をはじめ 7 地区（187.8ha）で導入されています。建築協定は、あざみ野地区（第 1）等 51 地区（横浜市で最多）で導入されており、建築協定の締結地区数が多いことが特徴となっています。

農業関係指標について

平成 12 年以降の総農家数、販売農家数はともに減少しています。年齢別の農業就業者人口の変化（平成 12 年～22 年）をみると、平成 12 年よりやや減少しているものの、40～50 歳の就業者がやや増加してきています。



主要な道路の混雑の状況

環状 4 号線や江田駅交差点付近、川崎町田線等が、慢性的に混雑しています。

| 混雑度       | 交通状況の推定   |
|-----------|---|
| 1.0 未満    | 昼間 12 時間を通して、道路が混雑することなく、円滑に走行できる。  |
| 1.0～1.25  | 昼間 12 時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間（ピーク時間）ある。何時間も混雑が連続するという可能性は非常に小さい。          |
| 1.25～1.75 | ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速的に増加する可能性の高い状態。ピーク時のみの混雑から日中の連続的混雑への過渡状態と考えられる。 |
| 1.75 以上   | 慢性的混雑状態を呈する。  |

青葉区の混雑度（平成 22 年）  
出典：H22 年道路交通センサス



緑被率の状況

青葉区の緑被率の推移をみると、区誕生直前の平成 4 年では 38.7% であったのに対し、平成 21 年になると、31.4% とやや減少していますが、横浜市全体よりも青葉区の方が緑被率は高い水準で推移しています。

